

子供を育てる旅行会社(可愛い子には旅をさせよ)

株式会社オーバーシーズ トラベル

誉田 雅夫

(モバイル端末でくすぐる好奇心、インタラクティブに楽しむ子供の旅のLCC、Low Cost Coordinator、を実現)

長引く景気低迷、社会構造変革、格差社会の拡大などで家庭所得の減少が進み、また社会学習に対する認識不足などで、学校行事での修学旅行を始めとする旅行に参加できない子供達も生まれている。一方で、団塊世代を始めとする中高年齢者は多くの金融資産を保有する。一般的に学校行事や教育関連旅行などは色々な規制や未成年を対象とする旅程管理、安全管理上の問題もあり、既存の慣習やルールの下、特殊な市場として取り扱われている。これらの旅行以外の子供向け旅行商品はレジャーを目的とした親子旅行や学生旅行などが手頃な価格で販売されているが、中学生、高校生などの年代に向けた社会学習、語学研修などを目的とする旅行商品などは少ないし、価格も割高である。ゲームやパソコン、モバイル端末の進化で子供達の内向き化が進み、学校では進学を目的とした知識の押し付け教育が続き、子供達の社会学習の不足や現実離れした教育で、子供達の人格育成や感性教育に悪循環を起こしている。国内外社会が複雑化する中で子供達に日本人としての自覚と国際人としての感性を確りと持ってもらう為に、学外体験学習の機会として旅をさせることを提案し、祖父母や両親の金融資産を孫や子供の社会学習や人格教育に向けることは今後の日本や世界の在り方を考えて重要なビジネスモデルに成り得ると考えました。ターゲットは金融資産にある程度余裕がある祖父母や保護者。団塊世代から高年齢者の持つ金融資産を実社会に還流することにより経済の活性化を図り、次世代の就業機会の拡大にも役立つ。旅行参加対象者は中学生、高校生など生徒。この世代が一番自主性を持って物事に興味を示し、提供する旅のコンセプトも認識して参加してくれる可能性が高いし、成長の段階で一番大事な時期でより多くの体験を必要とする。商品は社会体験、社会学習、語学体験、スポーツ交流、文化交流などをテーマとし、ストーリー性を持たせた内容で、旅行中に積極的にモバイル端末を駆使してインタラクティブなコミュニケーションを取り入れることで好奇心を強化する。要は保護者が喜んで財布を開いてくれ、子供が気軽に何度も参加出来る価格設定。LCCと同じで既存のビジネスを価格で取るものではなく、一寸敷居が高いと思って躊躇している親と子の両者をくすぐるセールスコンセプトで新しい市場を創る。

(本音の話)

我が家の姫をサマースクールや短期留学に参加させたいが、結構、費用が高い。彼女が興味を示すか、掛かる費用とコストパフォーマンスを考え何をしてやるのが彼女にとって一番良いことなのか。

(我が家の娘とスマートフォン、スマートフォンが旅を面白くする)

今14歳の娘とは彼女が2歳の時から二人で春、夏、冬休み毎に東京ディズニーリゾートに出掛け、彼女が12歳になるまで続けた。13歳の春休みに東京に、夏休みには沖縄に二人で出掛けた。14歳になった昨年夏休みには二人でハワイ6泊8日の旅行に出掛けた。彼女は初めての海外旅行、そして今年の5月にニュージーランド8日間の修学旅行に行く為の予行演習を目的にしていた。冬休みには友達の家と東京にも出掛けたし、先日は学校行事で岐阜県流葉スキー場にスキー講習会2泊3日にも参加している。娘は中学二年の時からスマートフォンを持っている。ハワイではルーターをレンタルして二人でテザリングしてスマートフォンを十二分に活用した。流石にハワイへのフライトは会社を経由したが、ホテルやオプションツアーはスマートフォンでネット予約をした。私は業界人なのでネット予約を難無く利用して、現地で困ることもありませんが、今は、旅慣れたお客様が同じように旅行されている。娘の目的はニュージーランドでスマートフォンをどう上手く利用するかを実際に体験してみることでした。ブログ、ツイッター、フェイスブック、ラインなどを自由に扱う彼女にとって、海外でどのような利用が出来るかに興味があったのでしょうか。私は娘がスマートフォンを海外で如何に使うかという興味を上手く利用して、彼女に海外に出る機会を増やせないかと考えています。仕事柄、いろいろと学生用のツアーパンフレットを見るのですが、物見遊山のツアーであれば安いものもありますが、親の同伴が必要です。子供 だけで参加出来るツアーは語学研修や社会体験型で参加費用が高く、簡単に娘を参加させることができない。このような実体験から今回の提案を書いております。

(我が家の娘の成長と旅の形態)

私の娘は小学校卒業までは自分の意思を強く示すことは少なかったが、中学生になると自己主張が強くなり、旅行をするにも家族より友達との旅行を好むようになった。民法の規定により未成年者が宿泊を伴う旅行をする場合や民法上の旅行契約をする場合、親権者の同意を必要とする。それ以前に、中等教育を終了するまでは、校区外への出歩きについての生徒指導があります。学校教育法では初等教育(小学校)を受ける児童、中等教育(中学高校)を受ける生徒、高等教育(大学、高専)を受ける学生としているが、初等教育と中等教育は受動的教育であり、高等教育は能動的教育とされており、中等教育は受動的教育から能動的教育への過渡期として子供の成長過程に於いて非常に重要な時期に当たる。昨年、娘が友達と東京へ出掛けた折りは友達の母親が同伴したが、今後、友達同士での旅行を好むようになってくるでしょう。ここに商機を見出せないか。

(学校行事としての旅行)

子供の旅行には学校行事での旅行と家族旅行などの私的な旅行がある。学校行事での旅行については長年の歴史と実績があり、様々な問題点を持ちながらも教職員、保護者組織、取扱業者などの努力で運営が行われているが、子供の旅行と言いながらも本来の目的とは異なる部分での問題点が多発していることは認識を改める必要がある。修学旅行など学校行事での旅行が以前のような物見遊山の旅行から体験型、学習型の旅行に変わり、その重要度が増しているにも拘わらず参加費用などの問題で参加できない子供達が増えている。保護者の所得格差の拡大や社会教育への認識不足により参加できない子供達への対応策が緊急の課題となる。

(我が家の娘とコンピューターゲーム、ゲームの進化が世界を変える)

娘は小学生の頃からニンテンドーDSやWIIなどでコンピューターゲームにのめり込み、PCでのアメイバーピグやブログを経験して、今ではスマートフォンによるあらゆるゲームに夢中になっている。インターネット環境が進化し、スマートフォンの普及が加速し、日々、様々なアプリケーションが生まれてくる現在、これらを避けて通ることは不可能になっており、逆にこれらを上手く利用する術を学ばせることが必要と思う。ただ、これらコンピューターゲームに絡んで起きている様々な問題(金銭トラブル、犯罪&被害、いじめなど)から子供達を守ることは当然として、特に注意したいことはコミュニケーションスキルの低下ではないだろうか。チャットによるメッセージのやり取り、会話の場でのモバイル端末の使用、友達との間でのモバイル端末の利用などが本来の人としての会話能力を低下させている。更に自宅や外においても独り籠ることによる弊害は計り知れない。しかし、反面、Googleが主催する“Solve for X” 国際的な問題を解決する為のインターネット国際会議、ゲームを問題解決に利用するゲーミフィケーションと言う記事が日経新聞に出ていましたが、たかがゲーム、されどゲーム、恐るべき存在になっているようです。

(バーチャルを知ってリアルの大切さを知る)

バーチャルの世界で何事をも知り得る環境になり、リアル社会を知ったかぶりをする危険性も生まれてくる。人と人が簡単に繋がるソーシャルネットワークが進化する現在、大人と子供の環境の差が無くなってきている。あらゆる情報のやり取りが目の前で交差して行く。されど、どれが本当で、何が正しいのか、誰が誰なのか。バーチャルに逃げ込むことで視覚と聴覚に満足感や喜びを覚えることは可能かも知れないが、五感で生きる本来の人間性を損なう可能性は大きい。

(昨年の日経トレンドイヒット商品がライン、LCC、ヒット商品が変わるように、旅の形態も変える)

昨年の日経トレンドイ、ヒット商品ベスト2がライン、ベスト3が国内LCCでしたが、ソーシャルネットワークとローコストエアラインは、旅行業界には諸刃の剣、しかし、避けては進まぬ状況になった。成田空港、羽田空港の規制緩和が大きな呼び水となり、関西空港の活性化策も功を奏し、航空座席の供給は大幅に緩和され、消費者の選択肢も増え、旅行費用の低減化にもプラスとなるし、旅行会社を流通の一つとして捉えるLCCも増えるであろう。ソーシャルネットワークの進展は個の多様化と個の繋がりを生み出すこととなりC2Cの関係増加をもたらすが、企業側も個への接近が容易になる可能性もある。

(将来の夢を持たない、今後の進路を決めかねる子供達に体験や経験の場を提供出来るのは旅の醍醐味)

将来の夢を持たない、今後の進路を決めきれない子供達が増えている。社会学習を疎かにして進学を中心にした教育プログラムの問題や社会学習・体験学習機会の提供不足が影響しているし、景気低迷による社会全体の閉塞感が家庭や社会を通じて子供心にも悪影響を与えている。キッズニアやTDR, USJなどのテーマパークや様々なキッズプログラムを提供する企業や大学などがある

し、ボランティア活動や地域活性化体験など社会学習的に利用できるものは探せばもっとある筈、上手い活用方法を考える必要性がある。知識を知識として覚えるのではなく、もっと身近かなところに引寄せ、経験や体験として理解できるような取り組みが必要。

(子供の旅行の現状と高止まりする参加費用)

子供を対象とした旅行商品としては主流が家族旅行であり、子供だけで参加する旅行商品は数が少ない。YMCA、スポーツジムが主催するスポーツ合宿、学習塾が主催する学習体験型旅行、ボーイスカウトなどがありますが、小学生が中心で中学生になると友達や学校生活が中心となり参加が少なくなる。中学生でも宿泊を伴う旅行はユースホステルやYMCAを利用した場合でも親権者の同意が必要であり、参加費などを考えれば、これらの旅行が妥当なのかもしれない。何れにしても親が同伴しない旅は一般的に価格が高止まりしている。

(インターネットやアプリケーションの進化を旅の面白さに上手く使う)

“未来輝く人成教育”を教育コンセプトに掲げる学校法人博多学園博多高等学校が2010年より取り組んでいるiPadを活用した次世代e-ラーニングを始め積極的にインターネット環境の進化を上手く利用しようとする試みは多くみられる。また、iOS及びAndroid用の学習アプリが数多く提供されており、リカレントのようなスマホアプリ制作者育成スクールもあり、デジタルナレッジの事業コンセプトはインターネットを通じて情報・知識の流通をより効率的、効果的にすること。クリカ(Clica)と言うスマホ無料アプリを提供してe-ラーニングシステムの拡大を図る。また、crew(株)が提供するイノベーションプラットフォームは法人・個人、全ての人がビジョンを共有出来るプロジェクトや仲間を探す場を提供する。ご当地検定、ロングトレール、町歩き協会のどなど旅に関するサイトやアプリは山ほどあります。これらを上手く使って旅を面白く出来ないか。

(コンセプトはモバイル端末を駆使して好奇心と学びごころをくすぐる旅の提案)

子供達がスマートフォンなどのモバイル端末を利用しながら旅することに興味を持たせ、旅を楽しませて、子供達が喜んで参加出来る旅行を、出来るだけ参加し易い価格で提供する旅行会社を創りたい。祖父母や親、保護者が必要性を感じ積極的にサポートしてくれる旅行商品を提供したい。スマートフォンなどのモバイル端末を携帯し、利用しながら旅をするので、ターゲットとしては中学高校生を対象とする。旅行設定日は通学の関係もあり、日曜日の日帰りツアー、日曜日祝日の一泊二日、春、夏、冬休みの旅行となる。昨今は、個人主義、プライバシーの問題などで相部屋を好まない傾向が強いが、若者の特権として、敢えて宿泊施設は民宿、ユースホステル、YMCA、宿坊など、出来る限り大部屋利用を優先しグループ活動などを積極的に取り入れる。移動手段はバス旅行を基本とするが、場所によっては公共交通機関を利用したり、レンタルサイクル、徒歩などを主体とする場合や、その組み合わせなどが考えられる。コミッションをベースにしたビジネスモデルでは無く、トータルコーディネーション料を頂くビジネスモデルとしたい。最小催行人数も可能な限り小さくして参加出来る可能性を高めたいが、ビジネスモデルとしての採算性は最低限必要である。特殊な郷土料理や製作現場見学、地産地消など特殊なケースは日程に組み入れるが、その他の場合は基本、弁当持参、若しくはコンビニ弁当などを購入して頂く。移動中、休憩中、見学や体験学習

中などにモバイル端末で現地の情報や課題の問題などを共有しながら、参加者で意見を交換し合うことにより旅の内容に興味を持ってもらう仕掛けを行ってゆく。旅行のテーマは歴史、文化、地理、一次、二次、三次産業を含めた経済社会、環境問題、その他、幅広く捉えるが、商品ごとにテーマのストーリーは興味深く設定して、参加者の満足度とリピート率を上げることは一般的なビジネスモデルと同じ。国内の遠隔地や近隣の諸外国へも足を伸ばす為、国内外での短距離LCCは競争も激しくなることから旅行商品の足として積極的に取り入れることも必要。はとバスなどの定期観光バスや外国人用定期観光バスなどを日程に組み込んだり、自治体が行う街歩きツアーに参加したり、ロングトレールを区分けして踏破すること、旅行中に意見を交換し合って次の旅行の日程の参考にしたり、インタラクティブに意思疎通が出来るよう日程に余裕を持ち深掘り出来る内容を取り入れた。海外旅行の場合でも基本的には同じだが、海外の場合は現地の確りした手配会社を利用して、より安全なオペレーションを最優先することが必要であり、彼らの契約がある宿泊施設、輸送会社などを利用する事が基本であり、勿論、YMCAやユースホステルを利用するケースもありえる。可能な限り参加し易い価格設定に於いて実施をしたいので、語学研修もフィリピンをもっと研究する必要がある。

(ローコストオペレーションを考える)

オフィスはSOHO、仕事仲間のコミュニケーションはSkype、無料電話アプリ、データはクラウドサービスで共有、ホームページも自社作成、ネットワークもツイッター、ブログ、フェイスブック、など徹底してコストの掛からないものを利用する。コンセプトに共感したファン倶楽部の組織化(保護者、及び参加者、それぞれの)、ただしオンラインでのコミュニケーションとし、オフ会は実施する。

(まとめ)

子供達の育成を旧態依然の学校教育に頼りつ放しの現状と社会構造の大きな変化の時代が重なり、子供達の成長に大きな歪みを生じ、社会の国際化が加速度的に進む時代に、子供達が確りと日本人としての自覚と国際人としての感性を強く持って貰わねばなりません。旅が子供達により多くの社会的接点と学びの場を提供する為には、自主的に参加したくなる旅の内容や仕掛けが必要です。祖父母や父兄の参加を促すサポートを取り込む為の確りしたコンセプトと手軽な参加費用の設定も必要となります。インターネット環境を積極的に活用し、より相応しい利用の方法も理解しながら、旅を面白く楽しみ、より多くのものへの好奇心を湧き立たせる仕組み作りと、財布に多少の余裕がある祖父母や父兄に是非、子供達に参加させたいと思う旅の創造と提供ができる子供達の為の夢の旅行会社をつくりたい。